

新田恵三氏発表・質疑応答

(質疑) 皇學館大学助教・谷戸佑紀氏

「興味深く拝見しました。発表レジュメの末尾で、「鎮魂行事がそもそもどういったものに由来するのかを論じることが出来なかった」とされていますが、現段階での展望などがあれば、お聞かせいただければと思います。」

(応答)

三輪田高房の伝えた鎮魂行事の作法を見ると橘家神道の「祈祷法」といわれる儀礼と類似している部分があります。この類似性については高房の出自が手掛かりになるのではないかと考えております。三輪田高房は発表でも述べた通り伊予国松山藩日尾八幡宮の社家三輪田家の出身であります。伊予国（特に大洲藩、松山藩）は先学が述べている通り（『愛媛県史』学問・宗教、長谷部八朗『祈禱儀礼の世界』、谷省吾「橘家鳴弦臺目の儀と玉木葦齋自作の秘弓」等）橘家神道が非常に隆盛した地域でありました。現在も日尾八幡宮の宮司は高房のご子孫（息子春元が兄米山に養子入りしたため）であります。昨年宮司様の御好意によりまして日尾八幡宮の資料調査を行ったところ垂加・橘家神道に関する伝書や注釈書が多数確認できました。また、千葉県文書館おとづれ文庫の三輪田高房関係資料の中には垂加・橘家神道関係の文献も含まれます。これらのようなことから三輪田高房の伝えた鎮魂行事は伊予国で隆盛した橘家神道文化に由来するのではないかと考えております。

なお、この点に関しては令和二年度日本宗教学会学術大会に発表申込をいたしましたので発表の機会がありましたらそちらもお聞きいただければ幸いです。